

松田 弦 (クラシック・ギター)

Gen Matsuda, guitarist

卓越したテクニックと繊細で美しい音色で、多くのファンを魅了しているギタリスト。

高知県出身。16才からクラシックギターを始める。早稲田大学卒業。2011年から2年間フランスのストラスブール音楽院に学んだ後、オーストリア、イタリア、スペインで研鑽を積む。アリカンテ大学（スペイン）主催のマスター修士課程修了。これまでに、松居孝行、村治昇、新井伴典、今村泰典、アレクシス・ムズラキス各氏等に師事。2009年第52回東京国際ギターコンクール第1位、2013年アントニー国際ギターコンクール（フランス）第1位（あわせて課題曲賞と聴衆賞を獲得）をはじめ、2000年～2013年の間に国内外8つのコンクールで第1位受賞。

2007年初めてのソロリサイタルを開催。2009年「GENIUS」でソロCDデビュー。その後キングレコードから発売された「弦想～Gen-Soul～」(2013年)、「esperanza」(2014年)は、ともに『レコード芸術』誌にて特選盤の評価を受けた。2017年4枚目のソロCDとなる「Evergreen」がフォンテックよりリリースされ、同じく『レコード芸術』誌にて特選盤となる。2022年には、1990年代のロックの名曲をカバーした5枚目のソロCD「Covers」を発表。“カバーの概念を超越したオリジナリティ溢れるクラシックギター・アルバム”（現代ギター7月号）と絶賛された。他に、新井伴典氏とのデュオで「夏の列島」(2011年)、「ジャック・イベール作品集」(2016年)、「エンリケ・グラナドス スペイン舞曲集」(2017年)、フルートの泉真由とのデュオで「海へ」(2018年)、「リベルテ」(2020年)、ヴァイオリンの澤菜穂子とのデュオで「夢弦」(2020年)の6枚のCDもある。

2016年、東京オペラシティ文化財団のリサイタルシリーズ「B→C」に出演、ダイナミックかつ繊細な音色で聴衆を魅了した。2017年、ヨーロッパ4か所、東京、高知でリサイタルを開催。2018年、2019年バンコクで行われたアジア・インターナショナル・ギターフェスティバルに招待されリサイタルを開催。2021年ピアソラ生誕百年を記念したオール・ピアソラ作品によるリサイタルでは、難曲とされるローラン・ディアンス編曲に挑戦し、新しい境地を示した。2022年は「バロック&ロック」と題して、バロックの作品と現代のロックバラードを交互に演奏する特色あるコンサートを京都と高知で開催する他、ヴァイオリンの石田泰尚とのデュオでジュリアーノの名曲に挑むなど、意欲的に活動している。

日本各地を始め、オーストリア、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、タイ、フィリピンなどでもリサイタルを行う。近年ではタレガ・ギターカルテット、フルート、ヴァイオリン、声楽等とのデュオ、華道家、書道家など異ジャンルのアーティストとのコラボレーションなど、幅広く活動している。また、文化庁主催文化芸術による子供育成総合事業（芸術家の派遣事業）や公益財団法人地域創造の公共ホール音楽活性化事業などにも参加し、小中学生を対象としたワークショップやコンサートを行うといった普及活動への取り組みも注目されている。

WEB サイト <https://genmatsuda.b-sheet.jp/>

(約 1300 字)